

秋田創生COC+事業

超高齢・人口減少社会における
若者の地元定着の促進と若者の育成

外部評価書
(平成29年度実績)

平成30年10月5日
秋田創生COC+協議会
外部評価委員会

目 次

I. 外部評価委員会実施概要	1
II. 外部評価結果一覧表	3
III. 外部評価委員会の評価結果及び講評	4
IV. 各外部評価委員の講評	6
V. 秋田創生COC+事業（平成29年度）に関する外部評価実施要領	8
VI. 外部評価委員会資料	別添

I. 外部評価委員会実施概要

1. 日時：平成30年10月5日（金）15：00～17：30

2. 場所：秋田大学百周年記念館 2階会議室

3. 出席者

(1) 外部評価委員

委員長 曾我 亨 弘前大学 副理事、人文社会学部教授
委員 本間 斗 秋田市 産業振興部長
委員 相原 学 一般財団法人秋田経済研究所 専務理事、所長
委員 佐藤 寿美 秋田県社会福祉協議会 事務局長

(2) COC+大学及び参加校関係者

秋田大学

理事 志立 正知
教育推進主管 後藤 猛
医学系研究科教授 中村 順子
地域創生推進役（兼）COC+推進コーディネーター 高橋 訓之
地域コーディネーター 川村 宏
副理事兼総合学務課長 高橋 正樹
地方創生・研究推進課長 大山 弘
地方創生・研究推進課 総括主査 佐々木 繁男
地方創生・研究推進課 主査 今野 悟

秋田県立大学

生物資源科学部長 金田 吉弘
研究・地域貢献本部COC推進主監 伊藤 邦夫
地域連携チームシニアスタッフ 鈴木 孝豊

秋田工業高等専門学校

創造システム工学科教授 野坂 肇
創造システム工学科准教授 丸山 耕一
企画室長 工藤 奈緒美

4. 次第

- (1) 開会
- (2) あいさつ
- (3) 外部評価委員会委員の紹介
- (4) 外部評価委員会委員長の選出
- (5) 外部評価実施要領について
- (6) 事業概要・自己評価結果概要の説明及び質疑応答
- (7) 外部評価結果とりまとめ
- (8) 外部評価委員からの講評
- (9) 閉会

5. 配付資料

- (1) 秋田創生COC+事業（平成29年度実績）に関する外部評価実施要領
- (2) 外部評価委員会資料
 - ① 秋田創生COC+事業自己評価書（平成29年度実績）
 - ② 評価に関する資料
 - ③ 別添参考資料
 - ア 平成27年度計画調書
 - イ COC+事業パンフレット
 - ウ 中間評価結果
 - エ 中間評価調書
 - オ 平成29年度補助事業実績報告書

Ⅱ. 外部評価結果一覧表

	外部評価 委員会	委員 1	委員 2	委員 3	委員 4
分野1 第1の柱：6大学連携による「秋田おらほ学」 の展開	Ⅲ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅳ	Ⅲ
分野2 第2の柱：3大学と地元企業群による就業 支援、若者定着の促進	Ⅳ	Ⅳ	Ⅳ	Ⅳ	Ⅳ
分野3 第3の柱：ふるさと秋田の魅力形成モデル づくり	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ
分野4 事業の運営・情報発信等	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅱ
全体評価	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ	Ⅲ

評価基準

評価の記号	実施状況
V	計画を大幅に上回った実績である。
Ⅳ	計画を上回る実績である。
Ⅲ	概ね計画どおりの実績である。
Ⅱ	計画を下回る実績である。
I	計画を大きく下回る実績である。

Ⅲ. 外部評価委員会の評価結果及び講評

1 分野評価

(1) 6大学連携による「秋田おらほ学」の展開（評価 Ⅲ）

地域志向教育プログラムによる共通の認証制度の構築に向けて、秋田県内の大学が連携して事業を着実に実施していることから、概ね計画通りの実績を上げていると認められる。

今後は、(i) 企業などと連携して、地域の産業を学ぶ科目の開発をすすめること、(ii) アンケートなどによって教育効果を測定し、授業の改善をはかること、(iii) 大学間の単位互換制度などを整備することで、幅広い学習機会を提供することなどが望まれる。

(2) 3大学と地元企業群による就業支援、若者定着の促進（評価 Ⅳ）

若者の県内定着を進めるために、インターンシップを増やしたことで、学生が企業を知る機会が大幅に増加しており、計画を上回る実績を上げている。さらに「秋田就職サポート会議」や、「県内企業との情報交換会」を開催することで、企業にインターンシップの重要性や、学生目線にたった有効な企業情報の提供方法などを伝えており、当初の計画調書に記された事業を検証し、足りない部分を改善していることから、計画を上回る実績であると認められる。

今後は、(i) コーディネーターなどの専門家を活用し、インターンシップをさらに充実させること、(ii) 地域の求人状況などを数量的に把握し、若者の県内定着を促進する有効な方法を見つけ実行すること、(iii) 産官学の連携を進め、若者を県内に定着させる取り組みを持続的に実施していくことが望まれる。

(3) ふるさと秋田の魅力形成モデルづくり（評価 Ⅲ）

教育実習誘致やコグニサイズ運動など、着実に実施していることから、概ね計画通りの実績を上げていると認められる。

本分野は、COC+事業のKPIの達成に直接結びつくものではないが、地域づくりに資するものであり、今後は産業界や行政との協議などを通じて、全県的な波及効果を生み出すための仕組みを作ることが望まれる。

(4) 事業の運営・情報発信等（評価 Ⅲ）

外部評価委員会の開催については遅れが見られたものの、自己評価に基づいて平成

30年度の事業計画を改善するなど、適切に運営されていることから、概ね計画通りの実績を上げていると認められる。

今後は、(i) PDCA サイクルを有効に回し、計画の見直しや改善をさらに進めること、(ii) 情報発信や評価の仕方について、他大学の取り組みなども参考にしながら改善を図ることが望まれる。

2 全体評価 III

若者の地元定着を促進し、地域の活動の中心となる若者の育成を目的とする秋田創生 COC+事業は、人口減少が進む超高齢社会の秋田県にとって必須の事業であり、COC+事業を推進する秋田大学、秋田県立大学、秋田工業高等専門学校には、地域から大きな期待が寄せられている。

COC+事業の事業期間は5年であり、平成29年度は3年目の年にあたる。体制整備を完了し、事業を加速するべき年である。秋田創生 COC+事業は、事業目的を達成するために、3つの柱をたてて事業を推進した。

第1の柱である「秋田おらほ学の展開」では、「教育プログラム開発委員会」および「6大学秋田おらほ学検討委員会」を中心に、各校の地域を志向する教育プログラムの進捗状況を確認し、共通の認証制度にむけて論点整理することができた。第2の柱である「就業支援」については、「秋田就職サポート会議」や「秋田ものづくりオープンカレッジ」などを通して企業と大学の連携を深めることができた。また、インターンシップ件数を大幅に増やすなど、学生と企業のマッチングを積極的に進めることができた。第3の柱である「ふるさと秋田魅力形成モデルづくり」は、秋田大学の取り組みであるが、首都圏の大学からスポーツクラブの合宿や教育実習生を誘致することができた。また認知症予防運動の「コグニサイズ」や「聞き書きボランティア養成講座」を開催し、高齢者の参加や高校生を力を引き出すことができた。さらに「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業フォーラム」を実施することで、秋田創生 COC+事業の3年間の成果を発信することができた。これらのことから、本事業は概ね計画通りの実績を上げていると評価できる。

本事業の事業期間は残すところ1年半となり、成果をあげる段階にはいつている。これまでの事業を検証し改善することで、最終目的である地域創生を実現できるよう、取り組みを進めていただきたい。また、事業期間終了後にも、必要な事業を継続するための方策を検討していただきたい。

IV. 各外部評価委員の講評

1. 分野1（第1の柱：6大学連携による「秋田おらほ学」の展開）に関して

- ・地域を志向する教育を、県内大学が連携して開発しておられるのは素晴らしいと思います。
- ・科目に企業と連携し、産業を意識したものをに入れていただくと、将来の就職に寄与すると思います。
- ・共通の認証制度構築に向け、着実に事業実施がなされている。
- ・自己評価は基本的に妥当であると思われる。
- ・秋田高専が、アンケートによる講演会の教育効果判定を行っているが、こうした「やりっぱなし」にしない取組は非常に良いと思う。
- ・この第1の柱のコアの部分は、教育プログラムの展開（実施）であると思われるが、②～④のうち2つが評価「IV」であることからすれば、分野の評価は「IV」でも良いのではないか。
- ・富山大学における5大学共同開講授業は、賑わい創出だけでなく大きな情報発信効果も見込めるものであり、費用もかかるが検討に値する取組であると思う。
- ・出身地を問わず、学生に対して地域の歴史、文化等を知る機会を創り、さらに地域の課題に目を向けさせる取組は極めて有意義であると思う。
- ・単位互換の対象とする計画があるとのことであり、早期の実現を期待する。

2. 分野2（第2の柱：3大学と地元企業群による就業支援、若者定着の促進）に関して

- ・県内企業との情報交換会はとてもすばらしい試みであると評価します。
- ・県内就職率をあげるための原因を分析し（数字を押さえ）、次の事業につなげて欲しいと思います。
- ・インターンシップを増やす試みは、引き続き、実施していただければと思います。
- ・インターンシップの増などにより、企画を知る機会が大幅に増加している。
- ・県立大学では、インターンシップコーディネーターが活発に動き、成果につなげている。こうした専門家や専門職を積極的に活用することは、非常に効果的であると思われる。
- ・採用活動の開始時期が遅いという状況は解消の方向に向かいつつあるようだが現実的には全国的な競争の中にあることから、産学管連携のもと、さらにこの柱の取組を進めていただきたい。

3. 分野3（第3の柱：ふるさと秋田の魅力形成モデルづくり）に関して

- ・聞き書き、コグニサイズ等は、秋田の地域づくりに資するものであり、通常の大学事業に埋め込んでいただければと思います。
- ・全県への波及効果が生じているとはいえない。参加者も限定的。
- ・「コグニサイズ運動」は、今後、秋田県の高齢者に浸透し、ラジオ体操のような身近なもの

となることを期待したい。

- ・実施事業の効果が直接的には現れにくい計画であるように感じられる。秋田の魅力形成のための取組、例えば産官がそれぞれ実施すべき事項について協議する場を大学が中心になって設定し、それを大学が支援する等の取組は検討できないだろうか。

4. 分野4（事業の運営・情報発信等）に関して

- ・外部評価委員会の開催については遅れたものの、課題を把握し、改善に努めておられることから、しっかり運営されていると評価いたします。
- ・自己評価に基づき、30年度事業を改善するなど、適切に運営をしている。
- ・情報発信や評価の仕方について、改善の余地がある。
- ・自己評価は基本的に妥当であると思われる。
- ・情報発信という点では、福井大学が実施しているマンスリーレターは非常によい事例であり、取組を検討すべきであると思う。
- ・分野の自己評価は「Ⅱ」と厳しくしているが、全体をみれば「Ⅲ」でも良いのではないか。
- ・本事業を運営するために、多大なエネルギーを費やしておられることに敬意を表する。
- ・他大学等の取組に関する情報収集、意見交換により、より効果的の高い事業が展開されることを期待する。

5. 全体評価

- ・県内就職率については、地域のキャパシティを把握し、何をどこまでやれば、どこまで伸びるかを計画し実施して欲しいと考えます。やみくもにインターンシップをやっても上がるとは限らないと考えます。
- ・COC+大学においては、どの組織が、どのようにPDCAサイクルをまわして、どのように改善したかを示明して欲しいと思います。
- ・各分野に意欲的に取り組んでいる。手段を適切に行っているものの、目標値が下がっている。
- ・受入する企業の魅力アップや情報発信力の強化の観点が必要かもしれない。
- ・分野評価では、評価「Ⅳ」が2分野、「Ⅲ」も2分野となった。数値目標、特に重要と思われる「事業協働地域就職率」は苦戦しており、数値目標全体を評価するならば「Ⅲ」が上限という印象である。以上から、全体評価は「Ⅲ」が妥当と考える。
- ・人口構造等の変化により、地方の企業、教育機関を取り巻く環境は大変に厳しくなっている。そうした中で次代を担う若者の地元定着を実現することは今後の秋田の地域社会を維持していくうえで重要な取組である。本事業により、関係教育機関が県内の関係機関・団体と連携しながら効果的な取組、大胆な挑戦を進めていくことを期待している。

V. 秋田創生COC+事業（平成29年度実績）に関する外部評価実施要領

1 目的

外部評価は、秋田創生COC+事業の自主的な見直し、改善を促し、もって当該事業の質の向上、事業運営の効率化及び透明性の確保に資することを目的とする。

2 評価の体制

(1) 外部評価委員会は、外部評価委員会に関する細則第2条の規定に基づき次の委員により構成する。

国立大学法人弘前大学 副理事・人文学部教授 曾我 亨

秋田市 産業振興部長 本間 斗

一般財団法人秋田経済研究所 専務理事・所長 相原 学

社会福祉法人秋田県社会福祉協議会 事務局長 佐藤 寿美

(2) 外部評価委員会に関する細則第4条の規定に基づき、外部評価委員会に委員長を置き、委員の互選により定める。

3 外部評価の実施方法

(1) 各外部評価委員は、自己評価委員会が作成した「自己評価書」、及び外部評価委員会におけるCOC+大学（秋田大学）とCOC+参加校（秋田県立大学・秋田工業高等専門学校）の説明及び質疑応答に基づき、別添様式の外部評価シートにより、4つの分野及び事業全体について次の評価基準により評価を実施する。

ア 4つの分野

第1分野：「第1の柱：6大学による「秋田おらほ学」の展開」に関すること

第2分野：「第2の柱：3大学と地元企業群による就職支援」に関すること

第3分野：「第3の柱：ふるさと秋田の魅力形成モデルづくり」に関すること

第4分野：事業運営、情報発信に関すること

イ 評価基準

評価の記号		実施状況
分野	全体	
V	V	計画を大幅に上回った実績である。
IV	IV	計画を上回る実績である。
III	III	概ね計画どおりの実績である。
II	II	計画を下回る実績である。
I	I	計画を大きく下回る実績である。

(2) 外部評価委員会は、各外部評価委員の評価結果に基づき協議し、外部評価委員会としての評価結果を決定する。

(3) 外部評価委員会は、評価結果を取りまとめた「外部評価書」を作成し、秋田創生COC+協議会長に報告する。

4 外部評価委員会

(1) 日 時 平成30年10月5日(金) 15:00~17:30

(2) 場 所 秋田大学百周年記念館 2階会議室

(3) 次 第

- ① あいさつ
- ② 外部評価委員の紹介・外部評価要領等の説明・委員長選出
- ③ 自己評価書等に基づく説明及び質疑応答
 - ア 自己評価実施要領について
 - イ C O C + 事業パンフレットによる全体事業概要について
 - ウ 平成29年度事業の進捗状況の概要について
 - エ 数値目標の進捗状況について
 - オ 分野1及びその自己評価について
 - カ 分野2及びその自己評価について
 - キ 分野3及びその自己評価について
 - ク 分野4及びその自己評価について
 - ケ 全体評価について
- ④ 評価結果の取りまとめ
- ⑤ 評価結果と各委員からの講評

(4) 出席者(予定)

① 外部評価委員

国立大学法人弘前大学 副理事・人文学部教授 曾我 亨
秋田市 産業振興部長 本間 斗
一般財団法人秋田経済研究所 専務理事・所長 相原 学
社会福祉法人秋田県社会福祉協議会 事務局長 佐藤 寿美

② C O C + 大学及び参加大学関係者

ア 自己評価委員会委員

秋田大学理事 志立 正知
秋田大学 教育推進主管 後藤 猛
秋田大学 地方創生センター地域協働・防災部門長 白木 智昭
秋田大学 医学系研究科教授 中村 順子
秋田県立大学 生物資源学部長 金田 吉弘
秋田県立大学 地域連携・研究推進センターコーディネーター 永田 徹
秋田工業高等専門学校 創造システム工学科 教授 野坂 肇
秋田工業高等専門学校 創造システム工学科 准教授 丸山 耕一

イ その他各校事業担当者・事務担当者

秋田大学 C O C + 推進コーディネーター 高橋訓之
秋田大学 地域コーディネーター 川村 宏
秋田大学 地方創生・研究推進課職員
秋田大学 総合学務課職員
秋田大学 学生支援・就職課職員
秋田県立大学職員
秋田工業高等専門学校職員